

本音の コラム



明けましておめでとう
うらやまです。
と、いいながらも、「めでたさも中くらいなりおらが春」と反芻している。あと百日ほどで、福島原発爆発事故から二周年。いまだ収束のメドがたず、多くのひとびとが苦しみと不安のうちに年を越した。「高濃度放射能放出事件」ともいえる、歴史的な大事故は、目下継続中だが、忘れては行かない。と、いえる。古来幾多なり。毛羽鱗介の層を受けし過現無量なり。

岩手県平泉にある世界文化遺産・中尊寺の落慶供養に寄せた初代・藤原清衡の「願文」である。

原発 良識ある撤退

鎌田 慧

核実験を成功させた瞬間、科学者たちはそのあまりにも強大な破壊力に恐懼し、アラジンのラン

東北を攻めたてた官軍と防衛の蝦夷軍の戦死者は、古来膨大な数だった。そればかりか、鳥獣魚介類の死もまた無数、すべての生きとし生けるものを浄土へ導きたい、とする祈りである。空を飛ぶ鳥、海を泳ぐ魚、森を走る小動物、川岸で歌う昆虫や田園の作物、その地下に生息するチヨウやセミの幼虫、ミズノ果てにいたるまでの、わたしたちの世界はいのちの連環でつながっている。そのすべてが、世にもおぞましい放射能に冒されている事実、思いを馳せることなく、まだ原発をつづけようとするものがある。神を畏れぬ傲慢、と、いっていい。

プから、この世に魔物を引きだしてしまった、と後悔した。アインシュタインを、原爆開発に動かしたの、ナチスが先にウラン



「さようなら原発10万人集会」の会場を埋め尽くす参加者。昨年7月16日、東京都渋谷区の代々木公園で

爆弾を成功させること恐怖からだった。「原子成功しないという」ことを知っていたら、指一本動かすのではなかった」と

ほぞを噛む思いで語った（ロベルト・ユンク『千の太陽よりも明るく』菊盛英夫訳）。恐怖の妄想から原爆が生みだされ、広島、長崎市民の頭上に投下された。原発は悪魔的な産物の廃物利用だったのだから、正当性のあるものではない。

「原発で手足ちぎられ酪農家」と牛舎の黒板に書きつけて自殺した農民の悲劇を、わたしたちは忘れてはならない。たぐさんの牛や豚や小動物が死んだ。津波で押し流された家族を捜すのを阻んだのは、放射能の壁だった。原発は多くのひとたちを絶望させた。

この国の裁判官は認めなかった。原発四十年の歴史で、労災認定者はたった十三人だけである。この地震列島に原発をもちこみ、五十四基も建設させたのは、わたしたちの無知だった。核廃棄物は、十万年後の子孫まで恐怖させる。原発は瞬間的な快楽だった。道徳的な頹廢だった、と気づいて、犠牲を子孫にまで先送りするのはやめよう。脱原発は歴史的真実である。

（ルポライター）

話題の発掘